

シンガポール経済ミッション 実施報告



ミッションの目的

新潟ニュービジネス協議会は、従来の業種や業態の枠にとらわれることなく、新たな事業や市場の創造を積極的に行おうとする個人や企業を支援することを通じ、新潟経済の健全な発展に寄与することを目的に、平成 9 年 1 月 7 日に設立され、20 周年を迎えたことを記念し企画。

ASEAN 優等生シンガポール、成長を続けるマレーシアにおける経済動向、業種毎のビジネスの可能性や展望を現場で体感し、同じ志を持つ参加者同士の交流を深め、具体的なビジネスチャンスを持ち帰ることを目的とした。

期間

2018 年 1 月 17 日（水） ～ 20 日（土） 3 泊 4 日

主な行程

日程	月 日	時 刻	スケジュール
1	1 月 1 7 日（水）	13：00 14：40 16：55	新潟空港集合 空路にて成田へ 成田空港より空路にてシンガポールへ（日本との時差 1 時間） シンガポール 空港到着
2	1 月 1 8 日（木）	9：00 10：00 14：00 18：30	シンガポール 市内視察 ◎訪問 ・JETRO シンガポール事務所 ・アルビレックス新潟シンガポール ◎イベント ・新潟県「食と観光 PR イベント」 P R イベントにて会食
3	1 月 1 9 日（金）	9：00	マレーシア・ジョホールバル視察 ・イスカンダル計画地 （プテリ・ハーバー、コタ・イスカンダル、レゴランド、グレンイーグル病院周辺、マルボロカレッジ、ラッフルズインターナショナルスクール）
4	1 月 2 0 日（土）	6：35 17：35 18：40	空路にて成田へ 空路にて新潟へ 新潟空港到着後解散

参加者

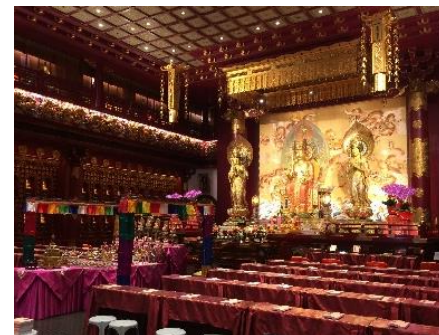
団体	N B C 役職	法人名	役職	氏名
新潟 N B C	会長	(株)鈴木コーヒー	代表取締役会長	佐藤 健之
新潟 N B C	副会長	(株)ウオショク	代表取締役社長	宇尾野 隆
新潟 N B C	副会長	つばさ税理士法人	代表税理士	山田 眞一
新潟 N B C	理事	愛宕商事(株)	代表取締役	高橋 秀之
新潟 N B C	専務理事	(株)イタリア軒	代表取締役社長	岡田 茂久

他、新潟シンガポール協会様からの出席者等を含め、合計 14 名

シンガポール概要

シンガポール共和国（通称、シンガポール）は、マレー半島南端、赤道の 137km 北に位置する。日本からは飛行機で約 7 時間、時差はマイナス 1 時間。赤道直下に位置するため、一年を通じて高温かつ多湿である。

アジアを代表する世界都市のひとつであり、高等教育を受けた人材や英語話者が比較的多く、税制の効率性やビジネスのしやすさなどが高いことから、多くの多国籍企業はアジア太平洋の地域統轄拠点としている。



マレーシア(ジョホールバル)概要

ジョホールバルは、マレー半島最南端に位置する、マレーシア・ジョホール州の州都で、都市圏の規模は首都クアラルンプールに次ぐ第 2 位。人口は約 50 万人。ジョホール海峡を挟んだ対岸にシンガポールがあり、相互往来は盛んである。2006 年より大規模な開発計画「イスカンダル計画」が進められ、隣国シンガポールの好調な経済発展の影響もあり急速な発展を遂げている。

視察訪問

1.JETRO（日本貿易振興機構）シンガポール

JETRO シンガポール事務所にて、「シンガポールにおける日本食品市場の可能性」について、現地コーディネーターより説明を受けた。

現地の商習慣、販売チャネル別（外食・小売）の概況、展示会・商談会の活用や、取り組み事例の紹介など、現地ならではの感覚・目線で実情や課題を伺うことができた。



2.アルビレックス新潟シンガポール

ホームスタジアム（ジャロンイーストスタジアム）を見学。アルビレックス新潟シンガポール CEO 是永大輔氏より説明を受ける。アルビレックス新潟シンガポールの戦略をはじめ、サッカーに限らない各国でのビジネス展開や将来の展望等、今までの経験から得た海外ビジネスを成功させるための戦略を伺うことができた。



3.新潟県産品PRイベント

新潟県主催「新潟の食の商談会 in シンガポール」と連携し開催された「新潟県産品PRイベント」へ参加。新潟の食や観光の魅力をアピールしようと開かれたイベントの場で、日本酒や海の幸、米菓など新潟の味を堪能した。現地バイヤーなどから新潟独自の食文化に興味を示され、ビジネスマッチングのチャンスがあることを認識した。

4.マレーシア・ジョホール州イスカンダル開発地域

マレーシア・ジョホール州では、「イスカンダル開発計画」と呼ばれる巨大な都市開発プロジェクトが進められている。イスカンダル地域内はA～Eの5つの地区に分けられ、それぞれの分野に特化した開発が行われている。このたびは、「Bヌサジャヤ地区」を中心に視察した。

【ヌサジャヤ地区】開発分野と視察先

大型不動産プロジェクトが集積。教育・医療・観光分野についても、開発が進む。州政府機能が集約。

• プテリ・ハーバー

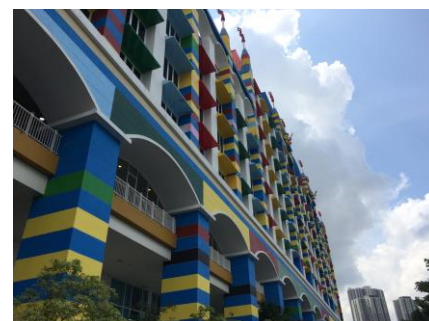
イスカンダル計画におけるウォーターフロント開発エリアで、世界有数の規模のメガヨットマリーナ。投資家から人気が高い。

• コタ・イスカンダル

州行政府の合同庁舎として誕生。新たな行政の中心地として、イスカンダル計画を象徴する建造物の1つである。

• エデュシティ

海外の有名教育機関を10校以上誘致する教育ハブ「エデュシティ」。アジアから世界を引っ張る人材育成を目的として開校された「マルボロ・カレッジ・マレーシア」には、ジョホールバルやシンガポールの富裕層の子女が多く通学。



おわりに

シンガポールでは、日本企業の活躍を目の当たりにし、ビジネスの可能性や展望を体感した。

ジョホールバルでは、香港と深センの関係をモデルとしたイスカンダル開発計画により、ヌサジャヤ地区をはじめとする地域とシンガポールが互恵関係を深め、経済発展していくであろうと認識した。

両国ともに、ベンチャーや中小企業が進出するにあたりビジネスチャンスが充分にあることが認識できた視察となった。

(文責：新潟ニュービジネス協議会事務局)